

スマホで利用状況確認 コインランドリーにIoT wash—plus 県内外で店舗拡大

日本経済新聞 地域経済

2018年2月14日 2:19 [有料会員限定]

コインランドリー運営のwash—plus（ウォッシュプラス、千葉県浦安市）は、スマートフォン（スマホ）で利用状況を確認できる「スマートランドリー」の店舗数を拡大する。現在は千葉県内3店だが、2019年度末までに県外も含め約25店に増やす。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を活用し、店舗の運営効率や収益性の向上を図る。

業務用クリーニング機器専門メーカーの山本製作所（広島県尾道市）と共同開発したスマートランドリーは、スマホにダウンロードした専用アプリを使うことで、離れた場所から洗濯機の空き状況や洗濯の進み具合などを確認できる。施錠・解錠やクレジット決済、領収書発行などもアプリで可能だが、利用料と通信料金をまとめて携帯電話会社に支払う「キャリア決済」も今年度中に導入し、電子決済の機能をさらに充実させる。

コインランドリーでは洗濯中に店舗を離れる客が多いため、乾燥し終わった衣類が洗濯機内に放置され、稼働率が大幅に下がることが課題だった。現在稼働している富士見店（浦安市）で放置時間を調査したところ、洗濯終了から回収まで平均20分以上かかっており、4割の利用者が10分以上放置していることが明らかになった。

このため専用アプリには洗濯完了を通知する機能を取り入れたほか、終了通知から3分以内に回収すると、1回の利用で付与されるポイントが倍増するサービスも採用した。獲得したポイントに応じて洗濯機の事前予約など利用できるアプリ機能を増やすことで、放置時間の短縮につなげる。

ウォッシュプラスは昨年11月、スマートランドリーを稲毛海岸店（千葉市美浜区）で初導入して以降、現在は県内3店舗で展開。今年度中に習志野市と東京都江東区で新たに2店舗開設するほか、来年度以降は年10店舗ペースでスマートランドリーの直営店を拡大する方針だ。

コインランドリーは自宅に乾燥機のない単身者や、布団などを洗いたい家庭からの人気が高まっている。新店舗ではランドリーの未利用層へも裾野を広げるため、宅配ボックスや貸倉庫などを店舗内に併設することも検討する。IoTの導入は利用者の利便性を高めるほか、運営側も稼働状況が把握しやすくなるメリットがある。将来的には直営店のほか、米国や中国など海外での事業展開も視野に入れる。

同社は13年5月、浦安市の不動産会社「協同住宅」の高梨健太郎社長が個人で出資して設立した。千葉県内を中心にコインランドリーを9店展開している。

コインランドリーにIoT

IoTがコインランドリーを進化させる

店舗外でもリアルタイムで状況確認

洗濯の終了を通知し、回収を促す

放置時間の短縮で、洗濯機の稼働率向上

利用者

コインランドリー

wash-plus

コインランドリー運営のwash-plus（ウォッシュプラス、千葉県浦安市）は、スマートフォン（スマホ）で利用状況を確認できる「スマートランドリー」の店舗数を拡大する。現在は千葉県内3店舗だが、2019年度末までに県外も含め約25店舗に増やす。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を活用し、店舗の運営効率や収益性の向上を図る。

県内外で店舗拡大

アトニーを持つ人や肌の弱い人向けに、洗剤の代わりに高濃度のアルカリオン水を使用する（稲毛海岸店）

洗濯中に店舗を離れる客が多いため、乾燥し終わった衣類が洗濯機内に放置され、稼働率が大幅に下がるのが課題だった。現在稼働している富士見店（浦安市）で放置時間を調査したところ、洗濯終了から回収まで平均20分以上かかっており、4割の利用者が10分以上放置していることが明らかになった。このため専用アプリには洗濯完了を通知する機能を取り入れたほか、終了通知から3分以内に回収する。1回の利用で収めると、1回の利用で付与されるポイントが倍増するサービスも採用した。獲得したポイントに料金をとめて携帯電話会社を支払う「キャリア決済」も今年度中に導入し、電子決済の機能をさらに充実させる。

スマートランドリーでは洗濯中に店舗を離れる客が多いため、乾燥し終わった衣類が洗濯機内に放置され、稼働率が大幅に下がるのが課題だった。現在稼働している富士見店（浦安市）で放置時間を調査したところ、洗濯終了から回収まで平均20分以上かかっており、4割の利用者が10分以上放置していることが明らかになった。このため専用アプリには洗濯完了を通知する機能を取り入れたほか、終了通知から3分以内に回収する。1回の利用で収めると、1回の利用で付与されるポイントが倍増するサービスも採用した。獲得したポイントに料金をとめて携帯電話会社を支払う「キャリア決済」も今年度中に導入し、電子決済の機能をさらに充実させる。

スマホで利用状況確認

を確認できる。錠錠・解錠やクレジット決済、領収書発行などもアプリで可能だが、利用者と通信料金をとめて携帯電話会社を支払う「キャリア決済」も今年度中に導入し、電子決済の機能をさらに充実させる。

スマートランドリーでは洗濯中に店舗を離れる客が多いため、乾燥し終わった衣類が洗濯機内に放置され、稼働率が大幅に下がるのが課題だった。現在稼働している富士見店（浦安市）で放置時間を調査したところ、洗濯終了から回収まで平均20分以上かかっており、4割の利用者が10分以上放置していることが明らかになった。このため専用アプリには洗濯完了を通知する機能を取り入れたほか、終了通知から3分以内に回収する。1回の利用で収めると、1回の利用で付与されるポイントが倍増するサービスも採用した。獲得したポイントに料金をとめて携帯電話会社を支払う「キャリア決済」も今年度中に導入し、電子決済の機能をさらに充実させる。

稲毛海岸店

市美浜区で初導入して以降、現在は県内3店舗で展開。今年度中に習志野市と東京都江東区で新たに2店舗開設するほか、来年度以降は年10店舗ペースでスマートランドリーの直営店を拡大する方針だ。

スマートランドリーは目が肥え、乾燥機のない单身者が把握しやすい。メリットがある。将来的には直営店のほか、米国や中国など海外での事業展開も視野に入れる。同社は13年5月、浦安市の不動産会社「協同住宅」の高梨健太郎社長が個人で出資して設立した。千葉県内を中心にコインランドリーを9店舗開いている。